

令和2年度 学 校 評 価 書 学校名（東温市立北吉井小学校）

令和3年2月

- 1 学校の教育目標 『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子を育てる』
- 2 経営の基本方針 グランドデザイン「チーム北吉井」→子どもの成長・安全・安心を中核に
- (1) 元気な子を育てるために(自律) (2)一生けんめいな子を育てるために(勤勉) (3) やさしい子を育てるために(協力)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価（１～４）			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員会の評価
			教職員	隣	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さなトラブルを見過ごさず、受容的な態度で児童に対応することを基本として、組織的に課題の解決に努めている。	3.1	3.6	3.5	○ 生活アンケートや教育相談等で児童の実態把握を行い、組織的な対応に努めた。 ○ 挨拶については、学級での呼び掛けやなかよし委員会の挨拶運動、放送での奨励等の工夫により、少しずつ活性化してきている。 ● 児童間のトラブルにおいて十分に目が届いていなかった事例があったと認識している。校内体制を整え、迅速かつ組織的な対応を徹底させるとともに、日頃からの児童や保護者とのより一層の信頼関係づくりに努めたい。	<u>生徒指導</u> 挨拶の活性化を図ることは、コミュニケーション能力の向上だけでなく、防犯の観点からも大切である。毎朝の挨拶運動は、教職員も率先して行っており児童のよいモデルとなっている。 <u>確かな学力を育てる教育</u> 家庭学習における保護者評価がやや低めであるが、これはどの学校にも共通していることでもある。個に応じた学習が進められるよう、自主学習の意欲化を図る等の工夫をするとうい。 <u>豊かな心、健やかな体を育てる教育</u> 道徳教育に関する保護者の評価が高く感心させられた。青少年赤十字活動等を通して心の教育を充実させた成果が、家庭での子どもの姿として表れているのではないかな。 <u>安全・安心な教育環境の整備</u> 見守りボランティアの募集や「まもるくんの家」の新規設置呼び掛け等、学校運営協議会で熟議した内容の具現化が図られている。今後も地域全体で子どもたちの安全・安心を守る輪を広げていきたい。また、防災教育でねらいとしている「自分で判断し適切に判断する力の育成」は、どの生活場面でも生きて働く力であり、ぜひ身に付けさせてほしい。 <u>家庭・地域との連携</u> 参観日や行事等には極力参加して、子どもたちの様子を見守っていきたい。また、地域の一員として祭り等の地域行事にも積極的に参加させていきたい。 <u>特色ある学校づくり</u> ホームページ等で青少年赤十字の取組が紹介されていたが、国際交流集会や道徳の授業、リモートでの海外との交流など、特色ある取組が熱心に推進されている。 <u>施設・設備の充実</u> 一人一台タブレットの整備等、教育環境は日々進化している。ICT サポートスタッフ等も配置されると思うが、児童にとって、恵まれた教育環境の整備が進められている。
	基本的生活習慣の定着	元気な声での挨拶や返事の定着を図っている。	3.3	3.3	3.1		
	児童理解の促進	一人一人の児童を細かく観察するとともに、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談やケース会議等で対応に生かしている。	3.1	3.4	3.1		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番（ほめる種）がある学習や活動の場を工夫し、みんなの学習クラブのプリント等を活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.2	3.4	3.1	○ コロナ禍での臨時休校もあったが、7時間授業等の実施やプリント等による反復学習、自主学習の工夫などにより、基礎・基本の定着に力を入れた。 ○ 思考力・表現力の向上のため、授業では、自分の考えを書く活動や授業の終わりに学習の振り返りをする時間を積極的に取り入れた。 ● 家庭学習については、保護者と児童との間に意識の差がある。学び方の指導をしたりノートの紹介や称揚の仕方を工夫したりして意欲化を図りたい。	
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.1	3.4	2.9		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えやその理由や根拠を明確にし、学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.1	3.5	2.9		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.1	3.6	3.4	○ 「道徳教育」や「仲間づくり」については、外部講師を招いての道徳科の授業研究や学級活動・集会活動など、人権教育とも関連させて取り組み、高評価を得た。 ○ 「体験活動」については、活動の縮小や中止もあり、全体的に肯定意見は低かったが、制限された中でも可能な限り実施し、充実した活動ができた。 ● コロナ禍において体力低下が生じないよう、縄跳びや持久走、外遊びの奨励を継続して行いたい。また、感染予防策も引き続き徹底させたい。 ● 一人一人の児童を大切にし、互いのよさが認め合える仲間づくりに努めるとともに、教職員の人権感覚を高める研修を充実させる。	
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.2	3.6	3.5		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	2.7	3.5	3.2		
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自律心の育成を図っている。	2.4	3.5	2.9		
特別支援教育	特別支援教育の充実	校内の支援体制を整備し、巡回相談等の専門家の意見などを参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	3.0	3.2	3.2	○ 医療機関や教育センター、教育相談員等の関係機関と連携を図り、教職員研修も充実させるなど、一人一人のニーズに応じた支援に努めた。	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.1	3.5	3.4	○ コミュニティースクールの立ち上げにより、学校運営協議会で登下校の安全について熟議し、情報交換や見守り体制強化への意見を交わすことができた。 ○ 防災教育を充実させるとともに、自分で判断し適切に行動する力の育成に向け、休み時間等に予告なしで行う避難訓練も実施した。 ● 地域全体で児童を守り育てる体制が充実するよう、学校からの発信や見守りボランティアの啓発の仕方などを工夫していきたい。	
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	3.1	3.7	3.0		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.2	3.4	3.1		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	2.7	3.2	2.8	○ ホームページや学校だよりで学年や学校全体の活動をこまめに発信するよう努めた。1学期に比べて毎日のホームページのアクセス数も2倍以上に増えている。 ● コミュニティースクールの取組とも関連させ、地域の人・もの・自然の教材開発に努め、地域との関わりをより充実させていきたい。	
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり学校だよりやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	3.1	3.4	3.2		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動の充実	JRC 活動への主体的な参加を通して、奉仕と協働の精神を培っている。	3.1	3.3	3.0	○ 青少年赤十字の実践目標のもと、道徳を核とした授業実践や心の教育に係る学習指導、リサイクル活動、集会活動や国際交流会など、各分野で特色ある取組を行い、奉仕や国際親善の精神を培うことができた。今後も継続したい。	
施設・設備の充実	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.1	3.6	3.2	○ 日常的な安全点検を丁寧に行うことで、危険箇所の早期発見に努めた。 ● 一人1台のタブレットパソコンが使える環境整備・教職員研修を早急に進め、個に応じた学びをより充実させていきたい。	<u>その他</u> 日々変化する教育情勢の中、先生方は多忙を極めている。実践した取組に対して自信をもち、今後も健康に十分留意して職務にあたってほしい。
	教育機器の有効活用	大型テレビやパソコンなどの教育機器を、有効活用している。	3.1	3.7	3.0		